

平成二十九年二月の作品（二月一〇日（金）（第四十八回）

（於 文京シビックセンター 5階D会議室）

針供養娘が親となり子を連れて （一江）

よく来たと母繰り返す小正月 （芙紗）

寒の池いつもの亀の見当たらず （清助）

古備前の壺にけれなる寒椿 （隆治）

葺替へに集ひし「結」のころかな （奉男）

襟立てて渡る千曲川や春浅き （孝昭）

南山に鼓を打ち鳴らす春の闇 （前歩）

風雪に耐へ弘前城の古木かな （貴美）

あくびして泣いて乳飲む春うらら （太郎）

陰膳にそへて爛酒一周忌 （平六）

国境を超えて豆撒き鬼は外 （正雄）

新しき横綱にわく節分会 （正佳）